

反トヨタ世界キャンペーンに協力を！

労働組合をつぶし、超法規的殺人に加担する

トヨタ本社、アロヨ政権に抗議を！

フィリピントヨタ労組を支援する会

http://www.green.dti.ne.jp/protest_toyota/

e-mail : protest-toyota@list.jca.apc.org

全造船機械労働組合関東地方協議会 045 575 1948

多国籍企業トヨタ自動車は2000年フィリピントヨタ労組との団体交渉を拒否し、2001年233名の組合員を解雇しました。トヨタはフィリピンアロヨ政権と結託してフィリピントヨタ労組を徹底的に弾圧しました。そして今、トヨタ自動車はフィリピン軍と連携して労働者や地域住民を軍隊によって威喝、監視し、事実上アロヨ政権の超法規的殺人に加担しています。

フィリピンの労働者の権利を踏みにじりその生活を破壊しているのは日本の世界に誇るグローバル企業トヨタです。このグローバル資本主義の時代、日本の多国籍企業が他国の労働者を踏みにじるのを私たちが容認しているならば、日本の労働者もまた踏みにじられることになります。あらゆる労働組合、諸団体、諸個人に訴えます。

トヨタ自動車本社とアロヨ政権に抗議を！本当に過酷な条件の下で、当たり前権利と生活を要求して闘い続けるフィリピントヨタ労組に対する支援を！

限りない底辺への競争を強制する

グローバルな多国籍企業！

多国籍企業が国境を越えて賃金の安い発展途上国へ展開することで、世界中の企業間の激しい競争が行われています。この激しい競争の下で多国籍企業は私たち労働者に賃金の低い発展途上国の労働者と競争することを強いています。そして、ほとんどの発展途上国では法律上は労働三権が保障されていますが、実際は多国籍企業の圧力などによってこれらの権利は奪い取られています。労働者の闘いは暴力で抑えられ、労働条件は劣悪なままで生活は破壊されています。

このことが世界の労働者に「限りない底辺の競争」を強い、日本でも格差を拡大し、ワーキング・プアーを生み出しています。この状態を改めるためには、私たちは単に自分達ためだけ闘うのではなく世界の労働者と共に世界の労働者のためにも闘うことが求められています。

トヨタに抗議を！アロヨ政権に抗議を！

トヨタの労働組合つぶし！

トヨタが2000年以来行ってきたフィリピントヨタ労組との団体交渉拒否、組合員233名の解雇、フィリピン政府への撤退の脅し、これらすべてがフィリピン法はむろんILO条約、国際人権規約、OECD多国籍企業ガイドラインなどに違反しています。しかし、トヨタは2003年のフィリピン最高裁判決、同年以来数次にわたるILO勧告、国際金属労連(IMF)の反トヨタキャンペーンなどにもかかわらず、日本政府とフィリピンアロヨ政権の庇護の下でフィリピントヨタ労組に対する執拗な攻撃を続けています。

アロヨ政権「NO ユニオン・ストライキ！」政策と 司法反動化

現地ではアロヨ政権と反動化した司法の下フィリピントヨタ労組への更なる攻撃がかけられています。アロヨ政権は多数の工業団地をつくり多国籍企業を受け入れるため「NO ユニオン！NO ストライキ！」政策を強力に進めています。

その一環としてトヨタの圧力の下アロヨ政権は法手続きを無視して2006年団体交渉権をフィリピントヨタ労組から剥奪し、御用組合に与えました。また、フィリピン最高裁は昨年10月

トヨタ自動車はフィリピン軍と手を切り、 団体交渉に応じ、233名の解雇を撤回せよ！

フィリピン憲法の認めるストライキは「いまや時代遅れだ」と宣言しフィリピントヨタ労組のすべてのストライキを違法とし、違法ストライキを行った233名の解雇は適法だという判決を下しました。また、今年4月フィリピンマニラ高裁の本訴判決は2003年最高裁の「フィリピントヨタ労組に団体交渉権がある」との仮処分判決を覆しました。アロヨ政権とフィリピン司法は当たり前前の労働者の権利を主張する労働組合から団体交渉権を剥奪し、団体交渉権など必要のない会社を作った御用組合にだけ団体交渉権を与えています。

それでもフィリピントヨタ労組をつぶせないトヨタとアロヨ政権はフィリピントヨタ労組に更なる攻撃をかけています。

軍隊が前面に出て脅しをかける

フィリピン現地！

現地人権団体 KARAPATAN はアロヨ政権樹立以後900名を越える議員、ジャーナリスト、牧師を含む農民、イスラム教徒、少数民族、労働者などが超法規的に殺害されていると報告しています。国連を含めた世界の諸団体がこの超法規的殺人はフィリピン軍と警察、その関連組織によって行われており、この殺人は政府によって事実上免罪されていると断定し、非難を強めてきました。

しかし、この批判によって昨年から超法規的殺人は人数こそ減少していますが、今年3月、トヨタグループの矢崎総業現地法人の労働組合元委員長らの殺害に示されるように今も続いています。また、この超法規的殺人の減少の中で、軍隊がますます前面に出て人々を殺人の恐怖で脅しています。

すなわち、アロヨ政権が発足した2001年ごろには戦争地帯だけに配備されてきた軍隊は2004年ごろから全国の紛争地域の住民地区に

広範に配備されるようになりました。そしてアロヨ政権の選挙違反や汚職の広がりが批判されるようになる中、2006年これまでメディア対策上配備されてこなかった首都圏にも軍隊が展開されるようになっていきます。

現在軍隊の民生部隊が全国の高校や大学、集会場や公園などでパワーポイント『敵を知れ！』を使ってフィリピン政府が公認している政党や労働組合、NGO 団体などや個人をテロリストであり、国家の敵であると名指しし、超法規的殺人で殺されて当前であるかのように煽り立てています。そして様々の紛争地域や貧しい人々が多くすむ地域に軍隊を送り込んで「お前たちも反抗するなら殺すぞ！」と威喝、監視を強めています。

フィリピントヨタ労組指導者を

超法規的殺人で威喝する！

同じことが今フィリピントヨタ労組に起きています。フィリピントヨタの非正規雇用に専門学校研修生がいますが（専門学校は中間搾取しています）この学校から学生が送り込まれるに当たって軍隊は『敵を知れ！』を使って反テロリスト宣伝を行い、その中でフィリピントヨタ労組は国家の敵だと公言しています。

そしてフィリピントヨタ労組の事務所の近くに軍隊が送り込まれ、特定の人物を名指しして所在を聞き、写真を持って聞き込みを行い、会社にも出入りしてフィリピントヨタの労働者や地域住民を威喝、監視しているのです。恥ずべきことに！トヨタ自動車は世界製造業 NO.1 多国籍企業としてこれを受け入れ加担しているのです。

日本のトヨタ自動車海外子会社労働組合指導者に対する超法規的殺人の脅しに加担しているのです。私たちがこれを許すならば日本の労働者もまた無権利状態に貶められることにならざるを得ません。トヨタに抗議を！